

山田小学校 保護者説明会 会議録（概要）

- 日 時 令和8年2月12日（木）16：00 ～ 17：05
- 場 所 山田小学校
- 参加者 保護者 21名
- 傍聴者 市議会議員 4名、報道機関 1名

1 適正規模・適正配置計画について

事務局 資料に基づき説明

2 質疑・応答

保護者1： そもそも統合先が胸上小学校となっているところに疑問があり、山田小学校でもいいのではないのでしょうか。理由として3つありますが、そもそも令和6年10月10日の地域説明会で説明された時に、当時、令和9年度に統合ということで説明いただいて、その時に胸上小学校になった理由として、当時、令和9年度に統廃合した場合、6年生が36名で2クラスになるので、胸上小学校を統合先にするという話をいただきました。統合の年度が変わって、令和10年度に統合ということになっています。当時の資料を見返すと、その当時だと5年生以下は1クラス1学級になるということで、結局のところ令和10年度に統合するとしたら全部1学級になるということになるのかなと思います。1学級になった場合に、胸上小学校じゃなく山田小学校の校舎を使っても問題ないと思うのと、山田小学校の方が築年数が新しいので、そちらの方がいいのではないかと個人的に思いました。それが一つ目の理由です。

2つ目の理由としては、中学校区に小学校ないし中学校は残していただきたいというのが2つ目の思いです。東見中学校が再編されて残るということが決定していると思うんですけども、山田中学校がなくなってくると山田中学校区内に学校が一つもなくなるということで、地域が衰退するんじゃないかという心配もありますので、せめて山田小学校は残してほしい、山田中学校区に小学校を残してほしいということがあります。

3つ目の理由としては、バス通学になると思いますが、上山田とか沼とか山田、南山田の停留所周辺にバス停を置かれるということなんですけれども、上山田の奥の人も多いと思うんです。その子供たちがバス停までどうやって安全に来るのかなというところ、子供たちだけで来れるのかなとか、バス停までの安全性というのが一つ不安が残ります。胸上小学校区内は、今も鉾立から胸上へバス一本行けてると思うんですけども、胸上小学校の方は道沿いに家が多く拾いやすい。安全性を考えた時に、例えば、鉾立から胸上を通して山田に行った方が安全性とか、費用面とか考えた時にもいいのかなと、個人的には思っているのですが、統合先は山田小学校の方がいいのではないかと考えたので、今日は意見として述べさせていただきました。

事務局： まず1つ目です。

山田小学校を残した方がいいのではないかとこのところですが、今まで様々なご意見を頂きながら検討していく中で、まずは教室数の問題があります。統合後に使用する場合、胸上小学校は必要な教室を確保できている状態ですが、現在の山田小学校と後閑小学校は、教室が不足しているというような問題があります。

保護者 1： 1クラスになるのにですか。

事務局： 通常学級の数だけであればよいのですが、通級指導教室の部屋を確保するか、支援学級が複数になるので、その部屋を確保しようと思うと、今の6学級と支援学級1学級で山田小学校は、ほぼいっぱいだと思います。再編後は、プラスして、支援学級がもう何学級かと、あと通級指導教室として2教室分、必要になってきます。胸上小学校は元々1学年2学級の教室数があった校舎ですので、教室数はしっかり確保することができるということで、胸上小を活用することとしています。

事務局： 2点目の、中学校区に一つ学校を残してもらいたいというところですが、今まで中学校の再編で説明会を開催させてもらっていますが、学校再編によって、学校がなくなる地域ってというのは、地域がさびれることを懸念している方が非常に多くいました。学校の跡地利用というところも、非常に重要なことであり、跡地利用については、地域の在り方や、シティーデザインに大きく関わってくるところです。現在、玉野市役所の中で、全庁を挙げてプロジェクトチームというのを立ち上げており、学校再編と並行して、跡地利用のことも検討していくこととしています。プロジェクトチームについては、まちづくりや、コミュニティ、高齢者福祉、子育て支援など様々な観点から、検討が必要であるため、市の15の部署が参加して、跡地利用について、例えば公共利用や民間の活用を含めた幅広い活用策についての検討を進めていくことを考えています。来年度、政策企画課で跡地利用の基本方針を作成する予定としており、その方針を基に個々の学校の再編についてこういったニーズがあるのかといったご意見を踏まえながら、具体化していくことを進めているところです。

最後にバス停まで子どもが安全に行けるのかというところですが、こちらは個々のバス停までどういう経路で行くという問題もありますので、現地を、確認をさせていただいた上で、こういった対応ができるのかを回答させていただきたいと考えています。

保護者 2： この再編は決定ですか。

事務局： こちらの計画の内容ですが、この再編スケジュールについては、計画策定までに実施しました地域説明会での意見を踏まえて、協議、検討してきた結果、教育委員会の方針として策定させていただいているところでありますので、この方針自体を白紙に戻すということは今現在は考えておりません。今後、個々の再編ごとに、こうした説明会を随時開催させていただいて、こういったご要望があるか、こういったところを不満に思われているかなどをよく聴取しつつ、進めていきたいと考えております。

保護者 2： その説明会って、夜の 7 時とかにやられてたやつですか。

事務局： はい、おっしゃるとおりです。

保護者 2： 夜の 7 時ってちょっと時間的に、僕は参加したことないんですけど、参加できない人が多かったかなと思うんですよね。子どもにご飯を食べさせて、お風呂入れてとかやっていたら、7 時は難しいと思います。その説明会で、こうやったぞって言われてもね、置いてけぼり感があるなって個人的には、思いました。

保護者 3： 学校に説明に来られたのは、これが本当の 1 回目だと、私の認識では思っていて、先ほど言われた方が、ちゃんと説明会、聞けなかったわっていう気持ちもすごくわかります。その中で意見が言えなくて、やっとここで聞けたって思ったら、もうなんか決まりですみたいな感じになってるのは、おかしいなと私も思いました。統合ありきで進んでいることに違和感を感じていて、私は今まで 5 回も出席させてもらって、反対ですと言わせてもらってきたんですが、もう統合しますよ、決まりですよっていうことで、そのまま進んでいくのがすごく嫌です。私は山田小学校が好きで選んで来させてもらっていて、教育も素晴らしいと思って通わせているので、できることならここに通わせ続けたいと思っています。山田小学校を基盤に他者と関わる機会を増やすという方法を考えてほしいなと思いました。交流は今でもできるのではないかなと思いました。準備委員会の話を言われたんですけど、準備委員会を設置したところから 2 年っていうので、設置をされたら、2 年経ったら統合しますって、統廃合を進める準備をしますっていうことで設置をされると感じるんですが、それを設置をするか否かを決めるのはいつなんでしょうか。今日、この会の反応を見て、皆さんにわかっていただけたと思うのかわかりませんが、その上で、もう来年度に設置しますっていうことはおかしいのではないかと。今日の反応とか、今まで説明しましたっていうことで決められてしまうのは違うなと思いました。それが一つ目の質問です。もう一つ、人員のことを先ほど言われていましたが、銚立小学校が休校になって、今、胸上小学校と一緒になっていますが、何人子供が増えて先生は何人増えたのか、

具体的な数を教えていただきたいです。今後の見通しも教えていただきたい
なと思います。

事務局： まず再編準備委員会の設置の関係ですが、これまで5校の中学校の再編の説明会を開催してきていますが、この説明会は、各小学校、中学校単位という小さな単位で説明会を開催させていただいています。さらには、説明会は保護者と地域の方々に分けて、学校再編の必要性や、今後の具体的な進め方について、様々なご意見をいただいて進めてきています。そうした中で、一定程度ご理解をいただいたという段階で、再編準備委員会を設置させていただきました。本日の説明会もその第1弾ということで、様々なご意見がいただけることを想定しているところです。例えば反対の意見がありますとかご要望、これからどうするんだ、これが進めないと前に進めないといった、様々なご意見をいただけたらと思って、お伺いしているところです。本日はそういった意見を皆様からいただいて、第2回目を開催することになった時に、改めてそういったところをどのように対応をさせていただくのか、相互に理解を深めながら、一定程度ご理解いただけるように取り組みを進めた上で、再編準備委員会の立ち上げを進めさせていただきたいと考えております。

保護者3： また説明会をしていただけるということなんですか。今日の説明会から、また何か情報を持ってきていただいて、また説明していただいて、私たちの意見も聞いていただいて、その上でってということいいですか？

事務局： はい、そのように考えてでございます。

保護者3： それじゃ納得いきませんということで、設置できなかった時はどのようになってしまうんですか？

事務局： そういったご意見をいただく中で、どういった対応するかということになりますが、いただく意見の中でも、行政としてできる範囲とできない範囲というのは明確に判断させていただきますし、その要望が現実的でないとか、あるいは法的に難しいとか、いろんな条件がありますが、そうしたところは、整理させていただいた上で回答はさせていただきます。仮に、どうしてもできないことは明確に回答させていただきますが、そこはご理解をいただかないといけないと思います。通学路の安全確保については、要望をいただく中で、例えば、玉野市だけではなくて、県や警察などの関係機関と連携を図りながら、その必要性を精査した上で、実際に対応ができることについて、前向きに検討をさせていただき、ご回答させていただくというような形で理解を深めさせていただこうと考えております。現実的にできないというところをご納得できず、それでは進んでほしくないという方は、もちろん保護者

の中にはいらっしゃるかもしれませんが。ただ、教育委員会としてはできる限りの対応をさせていただきたいと考えております。

保護者 3： できるできないじゃなくて、通わせ続けたいんだという気持ちを持っていることに対しては、どうですか。

事務局： ご意見の中に、この学校の歴史の中で非常に思い出があって、どうしてもこの学校を残してほしいという反対の意見の方は絶対いらっしゃると思います。それはどこの学校でもいらっしゃいます。そういったところはですね、その子供たちの今後の教育の環境がどういうふうになっていくかということと、こういった説明会で説明させていただく中で、大変申し訳ありませんが、ご理解をいただくように努めさせていただく対応にはなると思います。

保護者 3： 今の教育環境に不満がないので、納得がいかないまま進んでいくことに、それに蓋をしないといけない。もちろん私たちも子どものためを思って、教育のことも一生懸命考えています。学校の教育のことも教えていただいて、学校で育ててもらっているの、それがいいと思って今は通わせているので、それをご理解ください、今後の教育のためになって言われても、ちょっと今は納得ができません。

事務局： そういったご意見の方も何人もいらっしゃるかと思います。そういったご意見があるということは、認知をさせていただいた上で、他の方々はどのように考えられているかということもありますので、全体的な意見を伺いながら皆さんに説明させていただこうと思います。

事務局： 銚立小とか胸上小の資料を今日持ち合わせてないので、銚立地区の子どもの人数が正確に何人というのをお答えできないですが、スクールバス 2 台で通学していますので、四十数人程度の児童がいます。

事務局： 教員の配置については、今年度の胸上小学校についてはクラス数が変わっておりませんので、教員の配置自体の数は変わっておりません。

保護者 3： 一人も増えていないということですね。

事務局： はい。

保護者 4： 現段階の予定で令和 10 年度に統廃合予定と聞いたが、今小学校 1 年生でここに通って、3 年後に下の子が 1 年生になるので、おそらくその下の子が入学する時には小学 1 年生は胸上小になるかなと思ったんですけども、通

学路、バス通学の範囲を見ると距離的にうちはバス通学範囲に入っていない箇所になるんですね。2キロないとはいえ、やっぱり1年生を、明らかにここに通うよりは遠い学校に歩かせていくのは不安ではあるので、例えばそういった方はバスを利用できるような方法はあるのでしょうか。

事務局： 大変申し訳ないんですが、路線バスを利用して通学していただくのは問題ないと思いますけれども、そのエリアにスクールバスをずっと走らせるっていうことは少し難しいと考えています。通常、小学生の遠距離通学の範囲は、4キロ以上という国の方針があります。ただ、本市の場合は、これまでに様々な方の意見をいただく中で、4キロ歩かせるっていうのは難しいということで、その半分の2キロというところまで短縮して、バスを走らせるという判断に至っております。さらにそこから、距離を縮めるというのは、ちょっと困難かと思えます。申し訳ございません。

保護者4： 私自身は統廃合に正直言うと反対ではないので、今の小学校1年生、娘のクラスが3人という少人数で、今はまだいいんですけど、それが高学年になるにつれて、学習面に制限がやっぱり出てくると思うんです。グループ学習でグループを組めないとか、もうその人数だけでやる、やっていくしかないっていうところもあったりするので、それはちょっとどうなんだろうって思う部分があります。ただ、その中でやはり通学路や通学方法については懸念事項というか、不安に思う部分もやはりあるので、そこに関してはまた、私の方もいろいろ見させていただいた上で、ご質問をさせていただければと思います。

事務局： 通学のバスを走らせるのは難しいですが、この辺が危険であるとか、夜暗いので街灯が欲しいとか、通学路の安全確保等のご要望をいただければ、可能な限り対応させていただきたいと考えております。そういったご意見は具体的な再編が進む段階で、ご意見をいただければ、こちらのも早急に対応させていただきたいと考えております。

保護者4： ありがとうございます。

保護者5： 銚立小学校が胸上小学校に統合して、実際にその生の声というか、統合してみても子どもたちがどういう思いをしているのか、保護者がどういうふうに感じているのかとか、最初言ってた話と違うのではといった生の声を聞かれたりはしていますか。

事務局： 直接、保護者や児童から聞いていないんですが、胸上小学校の校長や先生方からは今年度の様子ということで、これまでに交流活動をしっかりしていたの

で、慣れないというより、それまでに友達関係とか先生方もよく知っていたので、今年度、鉾立小の子が胸上小学校へ行って、スムーズに学校生活を送れていると聞いています。ただ、一学期はやっぱりいろいろ違う部分があるので、その部分は学校がしっかり保護者や子どもたちの声を聞きながら、これまでと違った部分については、いろいろケアをしながら進めていると聞いてます。今年度も残りあとわずかとなりましたが、一学期はそういった違う部分での戸惑いがあったけれども、今はもう特に不安や不満といったような声はもう出ていないと聞いています。

保護者5： 学校からということですね。

事務局： はい、学校から聞いています。ですから、直接というお声は聞いておりません。

保護者5： 直接のお声を聞きたいのと、私が鉾立から胸上に変わった知り合いから聞くのは、ちょっとネガティブな意見を聞いたりもするんですけど、それが全てだとは思わないので、その辺、先生とか学校じゃなくて、子ども、保護者からの意見を聞いて、その上で山田小も統合に進むなら進みたいと思います。しわ寄せがきてほしくないなと思います。

事務局： わかりました。貴重なご意見ありがとうございました。

保護者5： 私は、中学校の再編準備委員会に入ってるんですけど、準備委員会が始まると、もう大きな流れの中で、抗えないものがあると思っています。なので、もし反対だとか、もっとこうしたいという思いがあるのであれば、今のうちにやっぱり発言をした方がいいかなとは思っています。すごいスピード感で進んでいくなと思ってます。

保護者6： どちらかという私も反対派なんですけど、ちょっと大きいところで聞きたいのが、めざす子ども像で、郷土への誇りや愛着を持ちというところがあります。その中で統合されていくと、その地域の小学校ではないところに通うって意識が、どうしても芽生えそうかなって思ったりしました。なので、これから総合的な学習の時間とか探究とか、どんどん地域のこともやっていくってような考えが、文科省の中でもあると思いますが、それが統合されるとよりやりにくくなったり、学びにくくなったりする可能性がないのかなと思います。もしなにかアイデアとかが今の時点であるんだったら教えていただきたいと思っています。

事務局： 学区が広がって地域が広がることで、地域への学習や思いというところはど

うなのかというところなんです、確かに学区が広がって地域が広がるけれども、そこは広がったところが子どもたちにとっての地域ですので、しっかりその地域連携をします。さらに、自分の住んでいる地元の地域、そこも大切にすることが必要ですが、具体的にどうするのかってなると、そこは学校と一緒にどのように進めていくのがよいのかをしっかりと考えていきたいと思っています。おっしゃられるように、子どもたちにとって大切な地域、この地域連携、地域学習の充実ということをしかりと考えていきたいと思っています。

保護者6： 統合されると人が増えて、多様な考えを知る機会が増えると私もすごく納得したんですけど、多様な考えを知るというところで、広く知ることはできるかなと思いました。ただ今の山田小の規模でいうと、人が多くはないなと思うんですけど、その中で考えは狭い中かもしれないけど、より深く関わることはできるのかなというところがあります。広くて浅いのがいいのか、狭くて深いのがいいのかみたいなのところがあるんですけど、これからいろんな状況がある中で生きていこうと思った時に、どっちも大事なな思ったり、今の状況でも、この人間関係の中でも深くその人のことを知ってということも大事なかなと思うので、ちょっと決められないのかなと思ったりしています。なんか意見があれば教えてもらいたいなと思います。

事務局： 本当にどちらもそれぞれ意味があるし、大切ではあるんですが、ただ一つ考え方として、確かに狭く深くっていうのも、これはこれで意味はありますが、ただ、子どもたちもいろいろなことを考えたときに、選択肢として広い中で、さらにそこから狭く深くというふうなことになると思います。最初から選択肢が狭いという環境は、やはり子どもたちの可能性や伸びや成長を狭めてしまうのではないかと考えています。そういう意味で、子どもたちがさらに成長し、学びや育ちを考えたときに、少しでも可能性や選択肢を広げた環境を整えて準備してあげる、それは大切ではないかなと考えています。

保護者2： 人数が少ないから合併って話だったと思うんですけど、説明によると、僕、合併って結構最後の手段なんじゃないかなって思うんですよ。これやってこれやってこれやって、ああ、じゃあもうどうしようもできませんってなった時の最後の手段だと思うんです。なんで子どもたちが少ないかとか、どうやったら増えるかっていう、まずはそこが先なんじゃないかなって思うんですよ。急に合併合併って言われても、という感じはあります。今まで、こんなことやって、こんなことやって、こんなことやりましたっていうのがもしあったら、お聞かせいただきたいなと思うんですけど。

事務局： 日本全国規模で人口減少していく中で、子どもたちの数が徐々に減っていく

というのは、もう抗えない傾向としてあります。そうした中で、本市も、加速度的に子どもたちが減っている状況に対して、教育面だけではなくて、子育て支援策や少子化対策など様々な取り組みを行っております。例えば、子ども医療費や在宅育児手当とか、あるいは移住施策などもあります。人口減少対策は、教育施策だけではなくて、子育て支援策や少子化対策など様々な角度から進めていかないといけないので、全市をあげて対応していく必要はあろうかなと考えております。そうした中で、教育面では、複式になっている学校、あるいは複式になる見込みがある学校を解消するという方向性を掲げてございます。少子化対策等は、教育面だけではなく、全市をあげての取り組みが必要となりますので、そちらに注力をしていくのはもちろんのことなんですが、教育面においては、これまで様々な方々からご意見をいただく中での方針というのがありますので、そこは申し訳ないですがご理解いただければと思います

保護者 2： それって、いろんなことやったけど、何一つ成果が出なかったですってことですか。

事務局： いろんな施策を展開していく中で、急速に進む人口減少をいかに緩和するかという形で考えていくことになろうかなと思います。実際、玉野市の施策としても、総合計画というのが上位計画としてありまして、その中では様々な分野でいろんな施策を展開することによって、拍車がかかる人口減少に歯止めをかけていくというような形の位置づけがございまして、現段階ではそういった傾向にはございまして、今後も引き続き、各部署からそれぞれ知恵を振り絞って、さまざま施策を展開していく中で人口減少に歯止めをかけていきたいというふうに考えております。

保護者 2： わかりました。俺たちのせいじゃないよってということですね。

事務局： すいません、そういうふうに聞こえる説明であつたら申し訳ございません。最後になりますが、これまで中学校の説明会も開催させていただく中で、学校再編の説明会におきましては、反対の方の意見っていうのが多い場合や、そういった声が大きい場合に、再編に賛成されている方、あるいは子どもが激減する中で、再編もやむを得ないというような考え方の方は、なかなか意見が言いにくい、というような声も聞いてきているところであります。そのため、本日の配布資料の表紙に掲載しております、ご意見、ご要望のフォームの中から、今日発言いただけなかった方々、あるいは発言していただいた方でも構いませんけれども、ご自身の思いでありますとか、ご意見、疑問とか不安に思われたこと、あるいは再編をするに当たってどういった点を改善すべきか、そういったご意見があらうかと思ひますし、また、本日説明会に

参加されていない方もいらっしゃると思います。そうした方々に、できる限り広く意見を聴取させていただきたいので、後日、テトル等を活用いたしまして、本日の資料を保護者の皆様に一斉送信をさせていただこうと思います。そこで、資料の内容を確認いただき、こちらの方に、ご要望とかご質問をいただければと考えていますので、ぜひお声がけの方をお願いできればと考えております。本日いただいたご意見やご要望、あるいは今後いただくフォームからのご意見など、こういった対応ができる、あるいは、こういうことに対してちょっと対応がなかなか難しい、というようなこともあろうかなと思います。そういったところを精査をさせていただき、改めて説明会を開催させていただこうと思います。ただ、一回目の説明会から期間を空けてしまうことになると、いろんなご意見も変わってくるようなこともありますので、できるだけ早急に開催させていただきますので、皆様にお声がけいただければと思います。よろしくお願いいたします。